



研究者名※	水野 僚子	学位※	修士(哲学)
所属※	人間社会学部 文化学科	職名※	准教授
連絡先	mizunor@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/7000001367		
研究分野※	美術史、表象文化論		
研究キーワード※	物語絵画、女性、身体表象、ジェンダー、セクシュアリティ		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「もの」とイメージを介した文化伝播に関する研究-日本中世の文学・絵巻から-(科学研究費・基盤B・研究分担者(代表者:池田忍)、2007-2009) ・絵巻にみる様式の「継承」と「伝統」の創出に関する研究(科学研究費・若手研究B・研究代表者、2010-2012) ・絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的な世界観に関する研究(科学研究費・基盤B・研究分担者(代表者:池田忍)、2010-2012) ・「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究(科学研究費・基盤B・研究分担者(代表者:北原恵)、2011-2014) ・中近世絵画における古典の変成と再結晶化—話型と図様—(科学研究費・基盤B・研究協力者、2014-2019) ・中世物語絵画における女性表象の生成と変容に関する研究(科学研究費・基盤C・研究代表者、2016-2019) ・物語絵画にみる女性表象の包括的研究—作品享受の主体としての女性像とジェンダー—(科学研究費・基盤C・研究代表者、2021-2024) ・「近世大名家における伝統芸能の受容と楽器蒐集に関する研究」(国立歴史民俗博物館共同研究(代表者:日高薫)、1998-2001) ・『職人絵』を中心とする日本中世近世都市風俗画の研究」(大学共同利用機関法人人間文化機構機構内共同研究、共同研究者(代表者:大高洋司)、2014~2015) ・「日本列島社会の歴史とジェンダー」(国立歴史民俗博物館基盤共同研究、共同研究者(代表者:横山百合子)2016~2018) ・「前近代日本の造形文化における古典知の構築」(学習院大学人文科学研究所客員研究員(研究代表者:佐野みどり)2018-2020) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・「紀州徳川家伝来楽器コレクションの研究」(国立歴史民俗博物館共同研究、RA、2000~2004) ・展示プロジェクト委員「紀州徳川家伝来の楽器」2004—2005・大分市屋外彫刻を活かしたまちづくり推進検討委員(大分市、2008—2012) ・放送大学講師(沖縄・九州ブロック、2010) ・アートプラザ指定管理予定者選定等委員(大分市、2009—2012) ・アート・プラザ—芸術的活動支援事業支援者選考委員(2009-2013) ・大分市美術館協議会委員(大分市教育委員会、2010-2012) ・大分市戸次本町修景整備専門委員会委員(大分市、2010-2013) ・別府現代芸術フェスティバル(国際芸術祭)2015「混浴温泉世界」実行委員(2010-2012) ・美術史学会学会誌『美術史』論文査読委員、2010 ・展示プロジェクト委員「楽器は語る—紀州藩主徳川治宝と君子の楽」(国立歴史民俗博物館、2012年) ・国立歴史民俗博物館 共同研究「日本列島の歴史とジェンダー」共同研究員 ・展示プロジェクト委員「性差の日本史」(国立歴史民俗博物館、2019-2021) ・江東区大島文化センター講座「中世の絵巻を読む」(2002) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回東京黄檗研究所奨励賞(共同研究、2001年) ・第1回美術史学会論文賞(個人研究、2003年) ・東京女子大学青山なを賞・特別賞(共著『性差(ジェンダー)の日本史』展図録(国立歴史民俗博物館)、2021年) 		

研究領域	美術史、表象文化論、ジェンダー、セクシュアリティ	(SDGs)	
研究テーマ※	物語絵画にみる女性表象の包括的研究—作品享受の主体としての女性像とジェンダー		

<p>概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)</p>	<p>【研究の背景・目的・内容】 1990年以降、世界の学問的展開に連動する形で、日本でも「ジェンダー」や「女性」を観点とした研究が諸分野で蓄積され、様々な場において主体的に関与していた女性の存在が明らかとなっている。本研究は、中世～近世の物語絵画に描かれた女性表象、特に聖俗の境界に配された女性の描写や属性に注目し、その図像的特徴やその思想的背景との関係性を探ることで、作品制作や鑑賞に主体的に関与した女性の存在の解明を目指すものである。女性イメージの構築には、制作主体や当時の複雑なジェンダー観や宗教的・政治的思想が関わっていたと考えられるが、聖俗の境界や異国や異界に配された女性像には、そういった規範から逸脱した女性の姿も多く描かれる。世俗の価値観やジェンダー観に縛られない女性像が創出されたのには、女性が主体的に作品の制作や鑑賞に関与していたという背景が推測できる。本研究では①いかなる風俗やしぐさによって描写されているか、②当時のジェンダー規範や社会的思想、女不浄観や往生等の宗教的思想との関係、③イメージの構築や引用、転用の様相に、女性自身の「語り」の要素が見いだせるか、の3点に着目し、具体的な分析を通して、女性が主体的に絵画制作に携わった可能性を問い直す。</p> <p>【応用例、研究の展望】 絵画の制作や享受に女性が主体的に関与してきた可能性を探るという着想に至ったのは、国立歴史民俗博物館基盤共同研究「日本列島の歴史とジェンダー」(2016～2019)において、考古学・歴史学・民俗学の研究者との共同のジェンダー研究を行った経験と成果による。展示活動のみならず、国際シンポジウムや共同研究によって、世界の研究者との対話を経て、絵画における女性の主体的関与を根本から問い直すという問題意識を強く持った。本研究が学際的研究を目指すのも、このような多領域諸学との共同研究を経たこと、文字・政治・性・労働・信仰・家制度・衛生をはじめ社会の隅々にまで各時代のジェンダーが深く関与しており、社会の構成員たる女性のイメージを探る上でも、多角的視点からの考察が必要と考えるからである。本研究の重要な意義は、美術史、文学、歴史学、民俗学・文化人類学・ジェンダー論の研究者との連携による学際的研究を行うことにより、より広範で、発展的な研究を目指すことである。様々な立場からの助言を得ることにより、個々の作品の新たな物語解釈を導き出すことは、美術史だけでなく、文化史研究等にも資するところが大きいと考える。</p> <p>【研究方法の特色】 本研究の特色は、表象としての女性像の重要性を指摘するのみならず、そこから制作や鑑賞に主体的に関与した女性の存在を考察する点にある。考察にあたり、時代や環境による複雑なジェンダー観、造形への芸術的理念との関連性に注視するため、文学、史学、建築史等、隣接諸学の研究者と連携した学際的研究を目指す。隣接諸領域の様々な方法論、理論などを導入し、国際的な研究成果を取り入れながら、女性表象の意味や意義を明らかとしたい。</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<p>・水野僚子「中世の絵巻にみる乳房の表象―『源氏物語絵巻』における雲居雁の身体表象の意味と機能―」『日本女子大学紀要人間社会学部』vol.28、日本女子大学、2019年3月、pp189-208 ・水野僚子「土蜘蛛草紙」に描かれた女性の身体―図像と解釈言説の再生産をめぐる―『視覚表象と美術』(ジェンダー史叢書第4巻、池田忍・小林緑 編、明石書店、2010年2月、pp182-203</p>
<p>共同研究・外部機関 との連携への期待</p>	<p>・海外の研究者、隣接諸領域の研究者との共同研究 ・東洋美術の伝統技法の保存・修復と継承 ・ダイバーシティ関連事業、ジェンダー関連事業への参画</p>